

002 小田切幸一家文書と目録作成について

1 本史料「小田切幸一家文書」は、2006（平成 18）年 9 月に須坂市に寄贈されました。前年秋に、ご当主小田切幸一氏に史料目録の作成をお勧めしたことが契機となりました。さらに歴史遺産として貴重な史料であるがゆえに、市民への史料公開と永年保存を実現するために、市への寄贈を提案したところ、その趣旨をご理解くだされ、快諾いただきました。そして翌年 9 月にいたり関係者が小田切家の土蔵に直接出向いて、木箱入りの当家史料を受け取り史料の寄贈が実現しました。

2 本史料を永年保存し、市民に公開するために、家別番号を 002 として整理しました。

史料は次のように A から E の 5 つに分類して、文書目録を作成しました。史料総点数は 898 点で、うち 6 割は「A 製糸・蚕種」関係史料となっています。

A 製糸・蚕種 248 袋 史料点数 553 点

B 金融・銀行 50 袋 史料点数 59 点

C 生計・家政 91 袋 史料点数 116 点

D 土地・税制 33 袋 史料点数 149 点

E その他 21 袋 史料点数 21 点

合 計 443 袋 史料点数 898 点

3 小田切辰之助・武兵衛兄弟の家業について

(1) 小田切幸一家の当主略系図を小田切家の記録により示すと次のようになります。

①小田切三太夫（初代）—（推定 4 代略）—⑥喜右衛門 —⑦佐兵衛 —⑧吉兵衛 —
⑨嘉右衛門 —⑩武兵衛—⑪沖兵衛 —⑫辰之助（天保 10 < 1839 >～明治 37
< 1904 >） —⑬佐太郎 —⑭炤次郎 —⑮幸一（現当主）

(2) 史料によれば、小田切辰之助家は糶屋・西糶屋と呼ばれ、弟武兵衛とともに明治期の須坂製糸業や蚕種製造のリーダーとして活躍しています。山七の屋号を持つ製糸工場「山七俊明製糸所」（明治 9 年設立）を経営していた武兵衛は、製糸結社東行社の社長としてグループを指揮していました。これより以前、明治初年には小田切辰之助は、蚕種製造に関心を持ち、千曲川東部地域を中心に活動しています。明治 5、6 年には長野県養蚕（蚕種）大総代に任命され、小県郡出身の藤本善右衛門とともに蚕種生産・輸出をめぐる諸問題に対処していました。蚕種製造、生糸生産とともに輸出入の拠点である横浜との取引がメインであることは、本文書目録からもうかがい知れるとおりです。幕末期から糶屋・油屋・糸師・呉服商を営み町年寄、須坂藩の御用達を勤めていた小田切総本家の家業が、明治初年から 10 年代には、製糸業経営や蚕種業、さらには金融業への関心を深めています。

4 小田切幸一家に保管されてきた目録中の史料は、そのほとんどが 12 代小田切辰之助とその弟武兵衛にかかわる史料で、明治初年から 10 年代に作成されたものです。

5 目録作成にあたっては、史料の保存状態・存在形態を尊重しつつ、史料閲覧者の便宜

も考慮して次のように整理しました。

(1) 史料名は原則として史料中の表題を記載したが、無表題史料には目録作成者がの
ように()をもちいて仮表題を掲げました。

(蚕種大総代覚書) (輸出生糸一件県達) など

(2) 記・覚のみで内容未知の史料で必要と思われるものについては、次のように()
内に内容説明を記載したものもあります。

記(製糸代金受取) 覚(人足記録) など

(3) 受取など切手類の史料は、便宜的に括って整理袋に入れてあるものもありますそ
の場合は、次のように一枚目の史料名を記し、他の史料については「外○枚」などと
略記しました。

記(受取)、外5通 金子引替一札之事、外2通など

(4) 史料形態については、横(横帳)、横半(横半帳)、縦(縦帳)、紙(一紙)、封(封
書)、綴、包紙などと記載しました。

6 史料の整理、文書目録の作成は、丸山文雄がおこないました。

平成19年5月 須坂市誌編さん室